

講義名	商業簿記 II		
科目区分	展開		
担当教員	孫 美		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限/後期 木曜日 4時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科/2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2019年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	4
		備考	

<b>主題と概要</b>
簿記は企業の利益を計算するための技術で、利益計算には二つの意味が含まれています。一つは儲けたかどうかを知るための事後的な計算（この計算結果は株主、銀行、一般投資家など会社外部の利害関係者に開示される）、もう一つは儲けるための事前的な計算（この計算結果は経営者が経営戦略を立てるために用いられる）です。この計算技術の基本的な仕組みが理解できれば、会社経営はもろろん会社の経営実態を理解することができます（たとえば、株式投資のため企業分析を行うとき）。簿記の計算技術によって作成される財務諸表には、会社の経営実態を把握するための豊富な情報が含まれています。本講義では財務諸表を読むための第一歩となる、複式簿記の基本をマスターすることを目的とします。講義内容は概ね日本商工会議所主催の簿記検定2級のレベルに相当します。

<b>到達目標</b>
日本商工会議所主催の簿記検定試験2級に相当する内容が理解できます。

<b>提出課題</b>
ほぼ毎回の授業で課題の提出を求めます。

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
課題や小テストを回収後、解答を配布します。点数は採点后、後日公開します。

<b>評価の基準</b>
平常点50%、定期試験50%の割合で評価を行います。 注：以上は平常時の評価方法です。2020年度後期も新型コロナウイルスによるオンライン講義が続く場合、講義中新しい評価方法をお知らせします。

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
本講義は商業簿記2級の内容ですので、商業簿記3級の知識は必須です。「商業簿記 I」をすでに履修済みであるもしくはそれに相当する知識を持っている人が対象となります。商業簿記2級の合格を目指す人にお勧めの講義です。

<b>教科書</b>
. 大原で合格の日商簿記2級 商業簿記 第2版. 資格の大原 中央経済社 1300円（税別） 978-4502301216

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<プリント資料> 講義中、配布します。

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・イントロダクション</li> <li>2. 第0章 3級の復習</li> <li>3. 第1章 現金預金</li> <li>4. 第1章 現金預金</li> <li>5. 第2章 債権・債務</li> <li>6. 第2章 債権・債務</li> <li>7. 第3章 棚卸資産</li> <li>8. 第3章 棚卸資産</li> <li>9. 第4章 有価証券</li> <li>10. 第4章 有価証券</li> <li>11. 第4章 有価証券</li> <li>12. 第5章 固定資産</li> <li>13. 第5章 固定資産</li> <li>14. 第5章 固定資産</li> <li>15. 第5章 固定資産</li> <li>16. 復習</li> <li>17. 中間試験</li> <li>18. 第7章 引当金</li> <li>19. 第7章 引当金</li> <li>20. 第8章 収益と費用</li> <li>21. 第8章 収益と費用</li> <li>22. 第9章 外貨建取引</li> <li>23. 第10章 株式会社の純資産</li> <li>24. 第10章 株式会社の純資産</li> <li>25. 第11章 企業結合</li> <li>26. 第12章 税金</li> <li>27. 第14章 本支店会計</li> <li>28. 第15章 連結会計</li> <li>29. 第15章 連結会計</li> <li>30. 復習</li> </ol>

以上の計画は講義の進み具合によって多少変更する場合があります。  
注：以上は平常時の計画です。2020年後期も新型コロナウイルスによるオンライン講義が続く場合、講義中変更内容をお知らせします。

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
○ ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
簿記の知識を習得するには、授業中の学習だけでは不十分で、必ず自宅での予習と復習が必要となります（復習と予習に約1時間必要）。その一方で簿記は正解が1つしかないため、自分の理解が正しいかどうか確認しやすく、こつこつ努力した成果が成績に如実に反映される科目でもあります。

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>
講義中、教員からの質問に対し口頭による解答を求める機会はほぼ毎回あります。ICTは利用しません。

<b>実務経験の有無及び活用</b>
実務経験あります。 実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思います。

<b>備考</b>